

平成22年度

《第1回特別奨学生試験》

# 国語

時間40分，100点満点

## 受験上の注意

1. 解答用紙には、受験番号・氏名を記入してください。
2. 解答は、解答用紙の所定のところに記入してください。記入方法を誤ると得点になりません。
3. 試験終了の合図とともに、解答用紙・問題用紙とも提出してください。

郁文館中学校

次の文章を読んであとの設問に答えなさい。

政治を変えたい気持ちはあるが、自分の1票が政治を変えるという実感がない。だから投票に行っても無駄だと考  
 える人もいます。でも「1票が政治を変えたい」という実感がないのは当たり前。日本の有権者数はおよそ1億人です。  
 あなたの1票は1億分の1ですから、それが直接政治を変える力になることはありません。民主制とはそういうもの  
 実感のない1票が集まり、民意が生まれるのです。では、無党派層で、支持する政党も候補者もない人はどうすべ  
 きでしょうか。現在の衆議院選挙制度では、まず政党を選ぶようにします。衆議院の小選挙区である党に入りたい  
 なくても、より自分の考えに近いところを見つけて投票するようにします。でも、政党本位の二大政党制では、候補個人よりも政  
 党への思いを優先させるのがルールです。民主制の主役は国民です。国民一人ひとりの考え方はさまざまですから、  
 話し合いで決まらないときは多数決を取り、1票でも多い方の決定に従います。少数派はこの決定に不服でも、従  
 しかありません。それを強制されるのが、政治的な権力なのです。こう聞くとは何だか怖いですが、民主制の権力は、  
 国民によっていつでも取り換えられます。その貴重な手段が選挙なのです。日本では投票に行くのも自由なら、行か  
 ないのも自由。これを「任意投票制」といいます。棄権しても、誰からもめられることはありません。ただし、  
 棄権は、投票した人にすべて白紙委任するということ。選挙の結果、自分にとって不利な政策が行われても無条件に  
 従う覚悟が必要です。海外では、投票率が50%以下ならやり直すというルールのある国もあります。でも日本の場  
 合は、投票率が20%でも10%でも選挙結果は有効です。仮に投票率が10%になると、ある種のイデオロギーや  
 宗教をバックにした組織票が権力を握る危険が出てきます。それは本音が低く、60%に届いたり、届かなかったりとい  
 うのが現状。しかも若い世代を中心に政治への興味は薄れており、投票率は少しずつ下がっています。かといって、  
 投票率が高ければ高いほど、民意を反映した民主的な国だとは限りません。サダム・フセイン時代のイラクや現在の  
 北朝鮮のような独裁国家では、投票率も独裁者に対する信任率もほとんど100%です。独裁的な国ほど「国民にこ  
 れだけ支持されているから、自分たちが政権に留まるのは正当なことだ」と対外的に示したいのです。独裁者に従  
 わないと反体制と見なされて投獄などの危険があります。本音では「こんな指導者、もうこりごり！」と、思っている  
 も信任するほかないのです。葉巻とピースサインで有名なイギリスのウィンストン・チャーチルさんは、とてもウイ  
 ットに富んだ人物でした。その彼がこういっています。「民主制は最悪の政治形態だ。これまで試みられてきた民主  
 制以外のあらゆる政治形態を除けば」民主制は手間ひまがかかるシステムです。ことに日本のような二院制では、選  
 挙にかかるコストも議員の給料も2倍。メディアに踊らされる有権者もいれば、お金に汚い政治家もいます。重要  
 な決定をするのに、気が遠くなるような手続きと時間がかります。たとえそうだと、どんな清廉潔白な独裁  
 者が治める国家より、どんなにスピーディーな意思決定が下せる軍事国家より、グズでどうしようもない民主制国家の  
 方がずっとマシなのです。いま国連に加盟している国は192か国あります。このうち選挙によって民主的に政権を  
 選んでいる国は半分しかありません。軍事政権下では、たとえ選挙で野党が勝ったとしても、政権が「この選挙は無  
 効！」と宣言すればそれで終わり。国民の意思で平和的に政権が交代するチャンスは少なく、そこには必ず国民の血  
 が流れます。民主制の国には、国の数だけ選挙制度があるといわれています。いまの日本の選挙の仕組みは、決して  
 パーフェクトではないでしょう。不公平を感じたり、投票に行くのが徒労のように思えたりすることもあつたでしょう。  
 しかし選挙には独裁や専制から国民を守り、幸福を保障してくれる機能があります。そのことを忘れてはならないと  
 私は思います。

☆作問の都合上、省略した箇所があります。

(三宅 久之『14歳からの日本の選挙。』より)

語注

- ・無党派層：特定の支持政党を持たない人々のこと。
- ・小選挙区：選出議員数を1名にした、地域の狭い選挙。
- ・二大政党制：アメリカやイギリスのように大政党二つが政権争いをする政治形態。
- ・イデオロギー：政治や社会生活の様式を決定し、人間の行動を律する根本となる考え方。主義。
- ・サダム・フセイン時代：フセイン大統領が独裁者として政権を掌握していた時代。
- ・信任率：国民や国会が政府に対して、その適性を信用して政治を任せようとする割合のこと。
- ・投獄：ろうやに入れること。
- ・ウィンストン・チャーチル：イギリス首相を務め、第二次世界大戦勝利に導いた。
- ・二院制：国会が二院からできている制度。日本の場合は、衆議院と参議院の二院から成っている。
- ・清廉潔白：心が清く私欲のないこと。
- ・軍事政権：軍部が絶大な力を持ち、政治を担うこと。
- ・徒労：むだな骨おりのこと。

《設問》

問一 この文章は、第9章「なぜ投票に行かなくてはならないの？」の一部です。この文章を参考に後の語群の語句を  
 すべて用いて、きみが考える「投票に行かなくてはならない理由」を八〇字程度で述べなさい。(ただし、指定され  
 た語句はどのような順序で用いてもかまわないものとす)

- ・平和
- ・実感
- ・民主制
- ・支持する政党
- ・投票率
- ・民意
- ・選挙制度

